

現場の声 Real Voice

防災に関する普及啓発を行う
高山市民防災研究会の岩茸会長に
防災に関して聞いてみました

◆前例が通用しなくなっている

近年の災害は、被害の規模が大きだけでなく、頻度も増えています。それにより、従来の「危険になつたら逃げる」から「危険になる前に逃げる」といったように災害に関する考え方が変わってきています。「今まで大丈夫だった」「ここは安全だ」といった前例が通用しなくなっています。

◆自分の命を守るために早めに避難をしてほしい(避難場所は1カ所ではありません)

避難と言われると避難所に逃げることを想像される方も多いと思います。避難する場所は、避難所だけではありません。自宅の2階への避難(垂直避難)や、災害の影響のない親戚や友人の家への避難もあります。例えば、河川から離れていて山からの土砂災害の危険も無いのであれば垂直避難、または、土砂災害の危険があるのであれば、親戚の家に避難といったように、自宅の環境やその時の状況によって適切に避難していただきたいです。

◆日頃からの準備を進めてほしい

次のことを、家族で確認しておいてください。

- ①ハザードマップで確認
 - ・自宅は何が危険(河川の氾濫、土砂災害)か確認
 - ・安全な避難経路を考へる
- ②避難のタイミングを確認
 - ・警戒レベルによって、どう行動するか考へる
 - ・(レベル3になったら避難準備または避難を始める)
- ・緊急時の連絡手段を確認しておく(災害用伝言ダイヤル)

イヤル171など)

③避難する際の持ち物を準備

行政では、実際に災害が起こった際に、指定避難所において、皆さんに毛布や食料などの備蓄品を用意します。つまり、災害が起こる前の事前避難の際には、備蓄品は使用できません。そうしないと、災害が実際に起こった際に、備蓄品が不足する可能性があるからです。事前避難の際には、次のものを持参いただくように、ご協力をお願いします。

・避難する際に、自分に必要な最低限のものを準備
例えば、水や食料(1日分)、毛布、薬、普段使っているものの代用品(メガネや入れ歯など)

◆自分の家族や大切な人のことを考えてほしい

自分の命を守り、家族に迷惑をかけない行動ができます。この危機意識を、日頃から持ち、今回紹介した内容を実践していただきたいです。



危機意識を持って欲しい!

高山市民防災研究会会長 岩茸伸一 さん
清流の国ぎふ防災・減災センター
コーディネーター



防災研究会の講座の様子

6月

は土砂災害防止月間です

土砂災害の種類と前兆現象を紹介します。

●土砂災害の種類

土砂災害とは、降雨などにより山や崖が突然崩れることで大きく3つの種類に分けることができます。日本の国土は険しい山地、急な流れの川、雨の多い気候など、土砂災害が発生しやすい自然条件にありますので、特に注意が必要です。

①土石流

山や谷の石・土砂が大雨によって水と一緒に流れて、激しい勢いで一気に下流へ流れ出します。

②崖崩れ

地中に染み込んだ雨などによって、斜面の安定性が弱まり、さらに降った雨や地震の影響で突然斜面が崩れます。

③地すべり

斜面の表土が地下水と重力の影響によって広範囲で動き出します。

●こんな時は特に注意を

—土砂災害の前兆現象—

- ・急に川が濁る
 - ・山鳴りがする
 - ・崖に割れ目ができたり、小石などがパラパラと落ちる
 - ・地面がひび割れる
 - ・斜面から水が噴き出す
 - ・雨が降り続けているのに、川の水が減っている
- ※普段と違う現象があった際は特に注意しましょう。

